

2015年度版 WG3 セキュリティ成果物の変更点一覧

2015年度の成果物は、2014年度の成果物をベースとしています。以下に変更点の一覧を示します。

グレーアウト : 変更なし

(※1) : 2014年度版に対する追加項目 (赤色)

(※2) : 2014年度版に対する更新項目 (青色)

目次

章	節	タイトル	作成 年度	更新 年度	差分の概要
1	–	はじめに	2014	2015	(※2) 2015年度の活動について追記
2	–	企業システムで要求されるセキュリティ要件	2014		
2	1	非機能要求とセキュリティ	2014		
2	2	DBSGによるPCI DSS対応表	2014	2015	(※2) 新機能について追記
3	–	PCI DSSへのPostgreSQL対応調査結果一覧	2014		
4	–	調査結果詳細	2014		
4	1	アカウントポリシー機能の実現	2014		
4	2	pgaudit拡張モジュールの使用	2014	2015	(※2) オブジェクト単位の監査機能の追加
4	3	オブジェクト監査(pgaudit)	2015		(※1) オブジェクトの単位の監査機能の追加
4	4	PostgreSQLを拡張した商用製品による監査	2014		
4	5	DBMS一般情報へのアクセス情報の取得	2014		
4	6	出力したログの保全(改ざん防止)	2014		
4	7	(参考)監査に求められる機能とPostgreSQLの実現状況について	2015		(※1) 監査機能についての展望
4	8	CSVサーバログのテーブルへのロード方法	2014		
4	9	特定のクライアントからのアクセスを拒否する	2014		
4	10	OSユーザとDBユーザのマッピング(シンプルなマッピング)	2014		
4	11	OSユーザとDBユーザのマッピング(柔軟なマッピング)	2014		
4	12	パスワードポリシーの設定	2015		(※1) passwordcheck (contrib)の説明
4	13	パスワードの総当たり攻撃	2015		(※1) auth_delay (contrib)の説明
4	14	不正アクセスのチェック(パスワード攻撃の検出)	2014		
4	15	不正アクセスのチェック(SQL文の発行を検知(DDL含む))	2014		
4	16	定期的なセッション情報の分析(ログイン失敗回数が多い接続試行)	2014		
4	17	定期的なセッション情報の分析(長時間に渡りログインしているセッション)	2014		
4	18	定期的なDBアクセス情報の分析(スロークエリの傾向分析)	2014		
4	19	定期的なDBアクセス情報の分析(大量のリソースを消費するSQLの傾向分析)	2014		
4	20	定期的なDBアクセス情報の分析(エラーで終了しているSQLの傾向分析)	2014		
4	21	定期的なDBアクセス情報の分析(全件取得の傾向分析)	2014		
4	22	行単位のアクセス制御	2015		(※1) row level security (9.5)の説明
4	23	SQLレベルのファイアウォール制御	2015		(※1) sql_firewall(永安様作成)の説明
4	24	不正アクセスのメール通知	2014		
4	25	不正アクセスのSNMP通知	2014		
4	26	不正アクセスを動的遮断する	2014		
4	27	ユーザアカウントごとのアクセス時間の定義	2014		
4	28	アクセス時間外の接続検知	2014		
4	29	格納データの暗号化	2014		
4	30	格納データの透過的暗号化	2015		(※1) TDE(NEC作成)の説明
4	31	ファイルシステム透過的暗号化	2014		
4	32	PostgreSQLを拡張した商用製品による透過的暗号化	2014		
4	33	長時間アイドル中の接続を自動切断する	2014		
5	–	検証結果	2015		(※1) 性能検証について記載
5	1	目的	2015		(※1) 性能検証の目的を記載
5	2	透過的暗号化	2015		(※1) TDEの性能への影響を検証
5	3	行単位のアクセス制御	2015		(※1) RLSの実行計画への影響を検証
5	4	PostgreSQLサーバログへの監査データ出力による性能および運用性の検証	2015		(※1) 監査の性能への影響を検証
6	–	おわりに	2014	2015	(※2) 2015年度の活動について追記